令和２年度学校経営計画に対する最終評価

重点目標		具体的取組		評価の観点	実施状況の達成度判断基準	最終評価	分析・改善策等
1	生徒の学力向上に向け、BYOD(Bring your own device)を効果的に活用しながら授業力の向上を図る。	①	授業や朝学習等において、Classiの課題配信機能、動画配信機能、eポートフォリオ機能やロイロノート等BYODを効果的に活用し、学力を向上させる。	【満足度指標】 授業等においてBYOD(各自のスマートフォン）が効果的に活用されていると考える生徒の割合を高める。	A　肯定的な評価が80%以上 B　肯定的な評価が70%～79% C　肯定的な評価が60%～69% D　肯定的な評価が60%未満	B（77.2%）	GIGAスクール構想が徐々に具体化する中で本校においても新たに配置されるchrome bookの効果的な活用の研究をする必要がある。
				【成果指標】 年３回実施する基礎力診断テスト３教科のゾーンの底上げをはかる。	A　４月に比べ＋２以上 B　４月に比べ＋１ C　４月と同じ D　４月に比べ－１以下	C	一部成績が向上している教科もあるが、全体としては伸び悩んだ。特に英語と数学の基礎学力をつけていく必要がある。
				【満足度指標】 生徒がいじめのない安心できる学校生活を送ることができる。	A　肯定的な評価が80%以上 B　肯定的な評価が70%～79% C　肯定的な評価が60%～69% D　肯定的な評価が60%未満	A(84%)	昨年度に比べると、安心の度合いが高まっているのはいい傾向である。しかし、人間関係に悩む生徒は相変わらず存在しており今後とも支援する必要がある。
				【努力指標】 教員による効果的なＩＣＴの活用や業務のスリム化等によりワークライフバランスを意識する。	A　肯定的な評価が80%以上 B　肯定的な評価が70%～79% C　肯定的な評価が60%～69% D　肯定的な評価が60%未満	A（87.5%）	感染症による休業の影響もあり、超過勤務時間は減少傾向にある。またそれ以外の期間でもワークライフバランスを考えた勤務を考える職員が増えている。
学校関係者評価委員会の評価				おおむね良好であるが、アンケートでマイナス評価をつけた生徒の気持ちをくみ取ってもらいたい。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方法				ホーム担任や保健相談課の職員が中心となり、面談等を通してできる限り生徒の気持ちに寄り添っていく。			
2	生徒の基本的生活習慣の確立を図り、家庭での学習時間を確保する。	①	学習以外の用途でのスマートフォン等使用時間について、生徒に主体的に考えさせ、家庭での学習時間を確保させる。	【努力指標】 生徒一人一人の負荷を考えながら、生徒に適切な量及び内容の課題を課すことができる	A　肯定的な評価が80%以上 B　肯定的な評価が70%～79% C　肯定的な評価が60%～69% D　肯定的な評価が60%未満	D　(41.7%)	生徒の実情に対する先入観を廃し、学力をつけさせるということの重要性を職員が再認識する必要がある。
				【成果指標】 スマートフォン等の使用時間を生徒が主体的に制限することができる。	A　１日平均４時間未満 B　１日平均4時間以上、5時間未満 C　１日平均5時間以上、6時間未満 D　Ｉ日平均6時間以上	C　(5.5時間)	相当な時間がスマートフォンの使用に割かれている。適切な使用について、様々な機会を捉えて啓発する必要がある。
				【成果指標】 生徒が1日1時間以上の学習時間を確保している。	A　１日平均1.5時間以上 B　１日平均１時間以上、1.5時間未満 C　１日平均0.5時間以上、1時間未満 D　１日平均0.5時間未満	C　(0.8時間)	残念ながら、十分な家庭学習時間が確保されているとはいえない。今後は適切な課題の出し方等について研究する必要がある。
学校関係者評価委員会の評価				スマートフォンの使用時間が長すぎるのではないか。改善には家庭と学校の連携が必要である。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方法				適切な量の学習課題を与え切れていないことが、学習時間の不足や、スマートフォンの長すぎる使用時間という結果を招いている。家庭と連携しつつ、適切な啓発を行っていきたい。			
3	同窓会や地域の支援も受けながら、生徒の進路意識を高め、進学や就職につなげる。	①	特に近年本校を卒業し、進学・就職した、生徒にとって身近なOB・OGを中心に支援をいただきながら、生徒の進路意識を高める。	【成果指標】 1年、2年における進学又は就職の希望未決定者割合をそれぞれ10%以下、5%以下とする	A　いずれの目標も達成できた B　片方の目標を達成できた C　どちらの目標も達成できなかった	B （1年26.8%、 2年3.2%）	1年の進路意識がまだ低く、次の学年へ向けて啓発する必要がある。
				【成果指標】 ３年生の４年制大学進学者７名以上、就職希望者の就職決定率100%を達成する。	A　いずれの目標も達成できた B　片方の目標を達成できた C　どちらの目標も達成できなかった	B　（４年制大学合格者９名、就職決定率94%）	生徒の個別の事情も踏まえつつ、就職決定率100%へ向け支援をしていく。
				【満足度指標】 本校に進学して良かったと考える生徒、子どもを進学させて良かったと考える保護者の割合80%以上を目指す。	A　肯定的な評価が80%以上 B　肯定的な評価が70%～79% C　肯定的な評価が60%～69% D　肯定的な評価が60%未満	A　(生徒88.9%、保護者98.6%)	有り難いことに高い評価をいただいている。今後も期待に応えるべく学校運営に努力していく。
学校関係者評価委員会の評価				国立大学の合格者が出たのは、大変すばらしい。出口指導をしっかりしていくことが、志願者増加にもつながるはずである。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方法				進学指導・就職指導ともに生徒の志望を大切にするのはもちろんだが、その他の可能性の提示もおこなっていきたい。			